

第2回 一般廃棄物処理基本計画等策定委員会 議事要旨

開催日：令和5年12月15日（金）14：00～16：00

場所：蕨戸田衛生センター組合 2階 研修室

出席者：

委員：長森委員、植田委員、鴨下委員、荒井委員、大熊委員、齊藤委員、溝上委員、鈴木委員、木原委員、小柴委員、香林委員、渡辺委員

事務局：山本次長、浜野環境経済部次長、木村総務課長、加藤安心安全推進課長、上嶋施設課長、甲斐総務課長補佐、高津戸経理係長、飯田技師

関係者：(株式会社エイト日本技術開発) 王、渡邊

配布資料：

資料 1：既存基本計画の評価・分析及びごみ処理の課題について

資料 2：国、県目標の達成状況について（R4年度実績）

資料 3：ごみ処理の基本理念、基本方針（案）について

資料 4：分別区分について

資料 5：市民意識調査結果（速報版）・市民意識調査票

資料 6：食品ロス実態調査結果報告

1. 開会

2. 議題

（1）既存基本計画の評価・分析及びごみ処理の課題について

- ・事務局より、資料1「既存基本計画の評価・分析及びごみ処理の課題について」の説明。
- ・災害廃棄物について、町会では年1回避難訓練を実施しているが、避難所などから出るごみの出し方や収集方法についての訓練は行ったことが無い。町会でストックヤードを設置するなど、どのように対応すべきかを検討し、公開していただきたい。（委員）
 - 両市において災害廃棄物処理計画を策定しており、災害時に市民がごみを排出する場所（一次仮置場）などの市民の対応についてはその中で定めていく予定である。組合の課題としては、市民が集めたごみを仮置きし、施設へ運搬するためのストックヤード（二次仮置場）などの整備について検討していく。（事務局）
 - いつ災害が発生してもおかしくないことから、しっかり検討を進めていただきたい。（委員長）
- ・高効率ごみ発電について、蕨市、戸田市の規模ではどの程度の予算が必要か、検討しておくべきと考える。（委員）
 - 令和4年度の発電効率は12.9%であり全国平均よりは少し低めだが、様々な情報を収集して今後も検討を進めていただきたい。（委員長）

- 発電効率はごみ焼却量とごみ組成分析における低位発熱量を基に算出していることから、ごみ組成分析時のごみのサンプリング状況によって変動する。そのため、近年の11.3%、10.9%、12.9%はサンプリングのばらつきによるもので、概ね横ばいと考えていただきたい。また、設備の高効率化は費用が掛かるものであることから、費用と効果のバランスを考慮しながら検討していきたい。(事務局)
- ・ 小型家電のボックスでの回収について、個人情報の取扱いが不安でボックスに入れにくい。目の前でデータが削除されるなど、安心できるような手法があるとよい。(委員)
 - 例えばスマートフォンのデータ削除方法などは周知しているが、不安な市民へのケアも考慮していきたい。(事務局)
 - 目の前で対応は難しいと考えるが、ボックスにデータ消去法を掲載するなど、安心できるような手法を検討していただきたい。(委員長)
- ・ 出前講座について、どのような講座があるのか分からないため教えてほしい。(委員)
 - 自分も所属において、最終処分場の重要性などについて出前講座を実施しており、説明をした後に質問を受け付けるようなものとなっている。組合では、生ごみ堆肥化やダイオキシン類についての出前講座があった。内容が少し古いように感じるため、新たな講座などを検討していただけるとよい。(委員長)
- ・ 循環型ライフスタイルの促進について、広報紙やテレビなどによる啓発は一方通行に感じるため、イベントなど双方向の周知啓発手法があるとよい。(委員)
 - 対面、非対面の様々な手法や、議題5の市民意識調査における様々な提案や意見について、対応可能なものの実施について検討していただきたい。(委員長)
 - 現在実施しているイベントなどの施策については、市民意識調査において認知度なども把握している。そのようなデータも参考に、今後の周知啓発について検討する。(事務局)
- ・ ごみ出しが困難な世帯への対策について、戸田市はボランティア活動として「まごころ収集」を実施しているとあるが、ボランティアだけで将来的に続けていけるのか。(委員)
 - まごころ収集は、収集業者が委託費の範囲内でボランティアとして家まで収集に行くものである。市の福祉総務課と協力し、10軒程度の世帯に対し無償で実施している。今後も継続して実施する予定である。(事務局)
 - 一般のボランティアではなく、市の委託業者によるボランティアということで安心した。(委員)
 - 今後は必要世帯が増える可能性もあるが、対応方法を検討しながら継続していただきたい。(委員長)
- ・ 家庭ごみの有料化について、次期計画では明確に有料化が進められることになるのか。(委員)
 - 議題(5)の市民意識調査において事務局より説明いただきたい。(委員長)

(2) 国、県目標の達成状況について

- ・ 事務局より、資料2「国、県目標の達成状況について (R4年度実績)」の説明。
- ・ 異議なし。(各委員)

(3) ごみ処理の基本理念、基本方針について

- ・事務局より、資料3「ごみ処理の基本理念、基本方針（案）について」の説明。
- ・案に対する皆さんのご意見を踏まえて次回委員会で決定するというので、ご意見があれば後日でもよいので事務局にご連絡いただきたい。現時点ではこの方針で進めることで良い。(委員長)

(4) 分別区分について

- ・事務局より、資料4「分別区分について」の説明。
- ・現在、組合で処理に支障がないということであれば、両市の分別区分を大きく変更する必要はないのではないかと考える。また、今後の分別区分変更の見通しについては、両市で方向性は同じと理解した。(委員長)
- ・蕨市の「蛍光管等」「乾電池」について、戸田市では「体温計・血圧計・蛍光管」「乾電池・ボタン電池・ライター」となっている。分別区分名に詳細な品目が記載されていた方が分かりやすいと感じる。(委員)
 - 整理した記載にも詳細な記載にもメリットとデメリットがあると考え。ご意見として承る。(委員長)
 - 補足として、蕨市の「乾電池」については「乾電池（コイン型電池含む）」「ボタン型電池」という、ある程度詳細な分別区分となっている。(事務局)

(5) 市民意識調査について

- ・事務局より、資料5「市民意識調査結果（速報版）・市民意識調査票」の説明。
- ・問11～問13については棒グラフのナンバリングに誤りがあるため後日修正する。(事務局)
- ・問26の情報を入手しやすい媒体について、HPなどが多くなると想定していたが、広報紙が67.5%と多く、意外だった。(委員長)
- ・多くのデータを分かりやすくまとめていただいた。多くの人たちがごみの減量や再資源化に関心が高いことを誇りに感じる。マンションの定期会合では必ずごみの話題が出る。このデータを会合で紹介させていただきたい。(委員)
 - 委員会の資料については組合で再度精査を行った後にHPで公表するため、公表後はご自由に使用していただいて問題ない。公表時にはご連絡する。(事務局)
- ・問4のリサイクルのために取り組んでいることで、「外出先で出たごみは持ち帰り、自宅で分別・洗浄して捨てる」という意見があった。自分は持ち帰ることはあっても分別・洗浄まですることはないので、素晴らしい取り組みをしている人がいると感じた。(委員)
- ・問13のごみ集積所における課題については、日頃の悩みが的確にデータに表れており、他自治体でも同様の状況にあるのではないかと感じた。(委員)
- ・問20のごみ袋有料化に対する意見について、事業系ごみは有料の指定袋であれば何を捨ててもよいが、家庭系ごみでは分別もしっかり行った上での有料化になるものと思う。分別が前提とすると、結果にも表れているようにやはり反対意見が多くなる。また、今後はごみの減量も進んでいくものと考え。有料化については慎重に進めなければならない。(委員)

- 有料化をするか否かはどのように検討していくのか。この委員会か。(委員長)
- 家庭系ごみの有料化の検討については、負担の公平感などに加え、処理施設を整備していく際に国から交付金を得るための要件となっていることから、必ず検討していく必要がある。(事務局)
- 市民意見を尊重しながら検討していただきたい。(委員長)
- ・ 自由意見には面白い意見も多く、今後の施策の参考になるものもあると考えるため、引き続き施策の検討を進めていただきたい。(委員長)

(6) 食品ロス実態調査について

- ・ 事務局より、資料6「食品ロス実態調査結果報告」の説明。
- ・ 組合として初めての食品ロス実態調査ということで、貴重なデータである。「手つかず 100%残存」はもやすごみ中の5%程度と想定していたが、今回の結果では11%ということで、夏場は多いのかもしれないと感じた。(委員長)
 - [後日記]「もやすごみ」の中の「食品廃棄物等」の割合が43.23%、「食品廃棄物等」の中の「手つかず 100%残存」が11.82%ということで、「もやすごみ」全体の中の「手つかず 100%残存」は $43.23\% \times 11.82\% = 5.11\%$ となる。(事務局)
- ・ もやすごみに資源物が入っていた割合が23%ということで、これについては季節変動はないと考えるが、割合が多いと感じる。(委員長)
- ・ もやすごみ組成調査結果の表が少々見にくいため記載方法を検討していただきたい。(委員長)
 - 記載方法を検討の上、修正があれば再度資料を送付する。(事務局)
- ・ 次回委員会では秋の調査結果と多少の分析結果が記載されるものとする。(委員長)

3. 閉会